

平成 25 年 1 月 25 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名
 東京都渋谷区恵比寿四丁目 1 番 18 号
 恵比寿ネオナート
 ジャパン・ホテル・リート投資法人
 代表者名 執行役員 伊佐 幸夫
 (コード番号:8985)

資産運用会社名
 ジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 博之
 問合せ先 管理本部 経理部長 板橋 昇
 TEL : 03-6422-0530

2012 年 12 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・リート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2012 年 12 月度におけるホテルの運営状況につき、月次売上高並びにホテル宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。

本投資法人は変動賃料等の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人等から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

| ホテル／項目 | | 12月度 | 対前年同月 増減(注7) | 累計(注8) | 対前年累計増減 (注9) |
|------------------------|------------|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 神戸メリケンパーク オリエンタルホテル | 稼働率 | 84.6% | 2.7% | 80.0% | 3.6% |
| | ADR (円) | 17,964 | 366 | 14,326 | -319 |
| | RevPAR (円) | 15,199 | 792 | 11,464 | 266 |
| | 売上高 (百万円) | 526 | 19 | 5,466 | -88 |
| オリエンタルホテル 東京ベイ | 稼働率 | 96.0% | -3.1% | 94.0% | 15.3% |
| | ADR (円) | 20,467 | 1,369 | 17,469 | 1,528 |
| | RevPAR (円) | 19,649 | 727 | 16,425 | 3,882 |
| | 売上高 (百万円) | 649 | -9 | 6,762 | 1,014 |
| なんばオリエンタルホテル | 稼働率 | 89.3% | 2.5% | 87.6% | 0.3% |
| | ADR (円) | 11,138 | 360 | 10,049 | -201 |
| | RevPAR (円) | 9,947 | 589 | 8,805 | -144 |
| | 売上高 (百万円) | 170 | -6 | 1,858 | -51 |
| ホテル日航アリビラ | 稼働率 | 53.9% | -1.1% | 73.4% | 0.2% |
| | ADR (円) | 22,336 | -719 | 25,030 | 96 |
| | RevPAR (円) | 12,034 | -631 | 18,364 | 121 |
| | 売上高 (百万円) | 312 | -14 | 5,088 | 15 |
| オリエンタルホテル広島 | 稼働率 | 76.7% | 0.5% | 72.2% | 5.1% |
| | ADR (円) | 8,448 | 120 | 8,255 | -224 |
| | RevPAR (円) | 6,478 | 136 | 5,959 | 267 |
| | 売上高 (百万円) | 218 | 8 | 2,137 | 198 |
| 上記 5 ホテル合計 | 売上高 (百万円) | 1,874 | -1 | 21,312 | 1,088 |

| ホテル／項目 | | 12月度 | 対前年同月 増減(注7) | 累計(注8) | 対前年累計増 減(注9) |
|------------|------------|-------|-----------------|--------|-----------------|
| イビス東京新宿(※) | 稼働率 | 80.8% | 0.1% | 83.5% | |
| | ADR (円) | 9,792 | 707 | 9,154 | |
| | RevPAR (円) | 7,907 | 572 | 7,641 | |
| | 売上高 (百万円) | 56 | 4 | 629 | |

※イビス東京新宿の売上高はテナント賃料を除くホテル部分のみの売上です。なお、前賃借人から営業数値について開示の承諾を得られなかったため、対前年累計増減はございません。

12 月度の実績に関するジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、レジャー客を中心とした国内需要の取り込みに加え、イベント需要の取り込みにより、稼働率及びADRが前年同月を上回ったため、売上は前年同月を上回りました。料飲部門では、レストラン売上は宿泊稼働率の上昇により、婚礼売上は婚礼件数の増加により前年同月を上回り、部門全体の売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約19百万円上回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイについて

宿泊部門では、ADRを高める戦略が功を奏し、売上は前年同月を上回りました。料飲部門では、婚礼売上が前年同月を下回ったため、部門全体の売上は前年同月を下回り、結果として、ホテルの総売上は前年同月を約9百万円下回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、レジャー客の集客に注力し、稼働率及びADRが前年同月を上回ったため、売上は前年同月を上回りましたが、前年同月は震災により発生した営業損失に対する補償金収入の計上（約12百万円）があったことから、結果として、ホテルの総売上は前年同月を約6百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、価格訴求商品の販売に注力し集客を図ったものの、稼働率及びADRとも前年同月を下回ったため、売上は前年同月を下回りました。料飲部門では、婚礼売上は前年同月を上回ったものの、レストラン売上が前年同月を下回ったため、部門全体の売上は前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約14百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、レジャー客を中心に集客を図ったことにより、稼働率及びADRが前年同月を上回ったため、売上は前年同月を上回りました。料飲部門では、婚礼売上が前年同月を上回ったため、部門全体の売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約8百万円上回りました。

イビス東京新宿について

宿泊部門では、客室改装が完了し、積極的な営業活動によりレジャー客を中心とした需要を取り込み、ADRが前年同月を上回ったため、ホテル総売上は前年同月を約4百万円上回りました。

注 1) 上記のコメントは資産運用会社が賃借人等から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、資産運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注 3) 稼働率：対象期間の販売客室数を同期間の販売可能客室数で除した数値をいいます。

注 4) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。なお、イビス東京新宿はサービス料はありません。

注 5) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

- 注 6) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。
- 注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。
- 注 8) 累計とは期首（1月）から当該月までの累計値を記載しています。
- 注 9) 対前年累計増減とは、期首（1月）から当該月までの累計値と前年同期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.co.jp/>